

## 令和8年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 鹿児島県

農業委員会名： 霧島市農業委員会

## I 農業委員会の状況(令和8年4月1日現在)

## 1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和6年5月1日

任期満了年月日 令和9年4月30日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	19	19
認定農業者	—	10
認定農業者に準ずる者	—	2
女性	—	4
40代以下	—	3
中立委員	—	2

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	21	21	21

## 2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	2,894
農業経営体数	1,302

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	1,623
女性	634
40代以下	167

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	276
基本構想水準到達者	88
認定新規就農者	20
農業参入法人	30
集落営農経営	1
特定農業団体	
集落営農組織	1

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑			計
		普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	2,460	2,970			5,430

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

## II 最適化活動の目標

### 1 最適化活動の成果目標

#### (1) 農地の集積

##### ① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)/(A)
		5,430 ha	2,143 ha
課題	農地が分散して基盤整備ができていないため、担い手から見て望ましい農地が出てこない。農業従事者で主力を担ってきた世代が高齢化による現役から引退している。その様な農地を受ける担い手がいなくなっている状況下で、中山間地域等の農地条件が悪い地域を中心に耕作放棄地の有効活用あるいは、解消を図る検討が必要。		

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

##### ② 目標

農地の集積の目標年度	令和12年度	集積率	90.0 %
今年度の新規集積面積	101.9 ha	農地面積(C)	5,430 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	2,245 ha	(目標)今年度末の集積率(E)=(D)/(C)	41.3 %

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

#### (2) 遊休農地の解消

##### ① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	
		うち黄区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	491.6 ha	491.6 ha	ha
課題	農地が小さい、接統道が細い、鳥獣被害が多いなど耕作条件が悪く、担い手が少ない。		

##### ② 目標

###### ア 既存遊休農地の解消

###### a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	213.0 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	42.6 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

###### b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	352.0 ha
--------------------------	----------

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	①農地情報のデータベース化 ②地域の協議の場で、地域、県、市、農業委員等で検討する ③農地バンクの活用 ④非農地判断の徹底
-------------------------	---

###### イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	5.0 ha
---------------------------	--------

### (3)新規参入の促進

#### ①現状及び課題

現状	令和5年度新規参入者		令和6年度新規参入者		令和7年度新規参入者	
	59	経営体	64	経営体	65	経営体
	21.4	ha	13.0	ha	23.5	ha
課題	優良農地は既に耕作されており、あっせん対象にならない。 農機具の価格が高額なため、初期投資を確保できない。 耕作物、販路の選定をするための知識と技術の習得機会がない。					

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

#### ②目標

権利移動面積	令和5年度		令和6年度		令和7年度		平均	
	355.8	ha	380.0	ha	198.4	ha	311	ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積			31.1		ha			

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。))及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

## 2 最適化活動の活動目標

### (1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	10	日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	19	人
			農地利用最適化推進委員の人数	21	人

### (2)活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数	3	回
-------------	---	---

取組時期	取組項目	強化月間の内容
8月	新規参入の促進	就農相談会において、新規就農への課題の支援を行う。
12月	遊休農地の解消	意向調査の結果を踏まえ、あっせん活動を積極的に行う。
2月	農地の集積	地域の協議の場において、関係者を協議し、地域計画の見直しを行う。

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

### (3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数	1	回
---------------	---	---

開催時期	令和9年2月	相談会名	農林業後継者励ましの会
参加者数	1人	開催場所	国分中央高校・伊佐農林高校
相談会の内容	農業の担い手となる後継者への激励と、生徒や教職員に新たな農業参入を依頼する。		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入  
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)